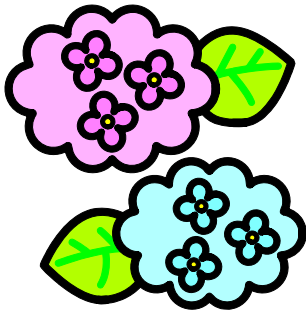


大谷教師塾



新支援センターだより「大谷教師塾」は本学ホームページにも掲載を予定しております。

目次:

教育実習とボランティア	1
伝えたいことは山ほどあります	1
介護等体験を終えて	2
学校ボランティア活動を通して学んだこと	2
寝食を共に、充実の2泊3日	3
これからの予定	3
採用の近道積極的に受講出願	3
教員・講師採用	3
知っておきたい教育用語	4
教育名言コーナー	4
読書案内	4

「教育実習と学校ボランティア」 副センター長 関口 敏美

昨年度は、新型インフルエンザの関係で実習先の学校も大学も何かと大変でしたが、今年度は、特にこれといった問題もなく、無事に5月中旬から教育実習が始まりました。

教育実習では、学習指導案を作成して授業を行う教壇実習が中心となりますが、他に、登校時のあいさつに始まる生徒指導や給食・掃除・部活などの指導も含まれています。大抵の学校で第3週目に研究授業が設定されますが、この時、本学では、関西地区の実習先には、ゼミの指導教員が授業参観に行くことになっています。

今年はまだ一校しか参観に行っていないが、昨年度は、中学校三校に参観に行きました。どの中学校も、校長先生によれば、小学校時代に学級崩壊を経験しており、荒れた子どもたちを相手に粘り強く生徒指導に取り組んでおられました。教育実



習生にとって、授業以前の段階で手のかかる生徒を相手に授業を行うことは、何かと大変ですが、授業以外の場面で生徒たちとの関わりを適切に持っていれば、

授業への参加度も良くなります。参観に行くと、研究授業がうまく行くように生徒たちが協力しようとしている様子が伝わってくる場合があります。生徒なりに精一杯実習生を気遣っているのです。こういう場面に遭遇すると、実習生が日頃から生徒との人間関係を積極的に築いてきたことがわかり、生意気ぶってはいても中学生はかわいいものだとはほほえましい気持ちになります。

とはいえ生徒と良好な関係を築くことはそう容易なことではありません。ではどうしたらいいのでしょうか。有効な対策は、教育実習前に学校ボランティアや学校インターンシップに参加して、さまざまな生徒とふれあい、生徒との接し方を研究しておくことです。

学校ボランティアがなかった頃の実習生は、「生徒にどう話しかけたらいいかわからない」と悩みを教育実習簿に書くことが多かったのですが、近年、実習前にボランティアやインターンシップに行く機会が増えた結果、以前よりも生徒対応の巧みな実習生が増えたように思います。このため、教育実習までまだ少し時間のあるみなさんに対しては、生徒理解を深め、生徒対応の力をつけるために有効な学校ボランティアへの参加を強く勧めます。

■ みなさんに伝えたいことは山ほどあります

教職アドバイザー 細谷 僚一・西寺 正

教員採用選考試験が近づいてきました。そのこともあって相談件数が多くなってきました。ありがたいことです。教職を目指す人は在学中に「教職支援センター」を最大限利用してもらいたいと思っています。

来室について2点ほど伝えておきたいことがあります。ひとつは、早めに相談に来てもらいたいことです。採用試験直前に初めて来室されても、事前の準備できていないことなど悔いを残す結果になりがちです。もうひとつは、相談の内容を自分なりに整理して臨んでもらいたいということです。

その他、教職に関する相談はどのようなことでも大歓迎です。遠慮することなく立ち寄ってください。



教員受験直前講習においても、アドバイザーは講師としてかかわっています。

介護等体験を終えて

国際文化学科 第3学年 寺内 千晴



挑戦

何もしない
ままでは成長が
できない

高めたい
コミュニケーション
能力

先日私は、教職課程の一環として「介護等体験」に行きました。5日間は老人介護施設、2日間は養護学校での体験でした。私がこれらの体験で一番不安だったことは、体験中に入所者及び利用者の方さらに生徒たちと上手くコミュニケーションをとることができるかということです。私たち大学生は実践的な介護を学んでいないということで、施設では1日の体験のほとんどにコミュニケーションが当てられていました。実際現場へ行くと、先入観を持たずに話しかけてみようと思気込んではいたものの、喋りやすそうな人を選んでしまっている自分がいて、情けなく思うこともありました。生徒たちが「先生がこのクラスに来てくれて嬉しい。」と言ってくれた時や、入所者及び利用者の方から「話を聞いてくれてありがとう。嬉しいですよ。」「お互いに頑張りましょうね。」などという言葉をかけてもらった時、些細なことでもコミュニケーションを取ることが、相手を理解することができ、信頼関係を築くことができるのだと実感しました。

私は介護等体験に行く前、教師になるためになぜ介護等体験が必要なのか分かりませんでした。体験を終えた今、分かったことがあります。どちらもコミュニケーションを図り、信頼関係を作っていくことが大切だということ

す。それは言葉でのやり取りはもちろん大切だと思います。しかし言葉だけではなく、表情や身振りなどの態度も信頼関係を作ることにとても大切な要素であることをこれらの体験から学びました。信頼関係が互いにあることで、より一人一人に合った支援や介護ができるのだとも分かりました。それは教育する時も同じではないでしょうか。授業や部活動、学校生活を通して生徒と教師間に信頼関係があればある程、生徒一人一人に合わせた環境を作り、生徒の持つ力を最大限伸ばしてあげることのできる教育を行えるのだと私は思います。それを実践するため教職員一人だけの力ではなく、多くの教職員・専門家の方と意見交換をし、多面的な見方で指導法を考え、試行錯誤を重ねていく努力があることもこの体験で知りました。

介護等体験は本当に大きな経験になりました。第一学年のときに経験した学校ボランティアやこれから予定しているインターンシップ、来年の教育実習もコミュニケーション能力を含め、教師としての資質を高めることのできる良い機会になると考えています。何もしないままでは成長できないと思います。失敗を恐れず何事も積極的な姿勢で、これからも色々なことに挑戦していきたいと考えています。



ボランティア活動を通して学んだこと

教育・心理学科 第2学年 水谷咲耶



室町小学校が誇る
さるすべりの木
(写真は学校HPより)

子どもに合わせて自分自身の教え方を変える、臨機応変さと頭の柔らかさの必要性を感じました。

わたしは平成21年10月から京都市立室町小学校で学生ボランティアとして毎週金曜日の2・3限目に授業補助と放課後学び教室に入らせていただきました。そこで沢山のことを経験し、沢山のことを学びました。

わたしは2年生の教室に入らせていただく機会が多く、2年生は1クラスしかありませんでした。そのクラスには、1人では机に向かい続けられない児童、勉強に集中することが難しい児童、休憩を挟まなくてはノートを書けない児童、自分の世界に入り込んでしまう児童などLDやADHDの傾向が感じられる児童たちが1つの教室で学んでいました。大学の講義で障害のある児童にはどのように接したら良いのかを討論して自分なりの考え方をもち、ある程度の対応は出来るつもりになっていました。実際に、教室に入ってみることで大学で学んだことがどれくらい「本当の教室」で通用するのかを考え直すことが出来ました。障害のある児童もない児童も、やらなくてはならない場面ではきちんとしたり、お願いすればやってくれたり、わたしが思っていた以上に児童は大人であることに気付けたのが大きな収穫だと考えます。

放課後学び教室は、地域のお母さんたちによって開かれ、児童がその日に出た宿題を友達と相談しながら進めていく場でした。普段の授業に入らせていただいている時とは場の雰囲気も児童の勉強に対する意欲も異なり、1時間と限定された時間の中でどのように信頼関係を築いていくのが課題になりました。算数の宿題をする子が多く、どこにつまずいているのか、どう解説すれば分かるのかも児童によって少しずつ異なってくることを学びました。児童に合わせて自分自身の教え方を変える、臨機応変さと頭の柔らかさの必要性を非常に感じました。

6月2日から3日間、花脊山の家にて5年生と一緒に連れていってもらいました。室町小学校での課外活動は初めてであり、参加させていただいて非常に嬉しく思っています。通常の授業とは異なった場所や状況下にある児童の行動やこころの動きを見つめ、先生方はどのように働きかけ、取り組まれるのかをしっかりと見ることができました。





寝食を共に、充実の2泊3日

「小学校花脊山の家長期宿泊学習」ボランティア
文学科 第4学年 堀岡 亜衣子

上賀茂小学校の長期宿泊学習4泊5日のうち、後半の2泊3日、私はボランティアとして参加しました。対象学年は5年生です。子どもたちは、学校とはまた違った姿を見せます。また、子どもたちとのかかわりの深さは、これまでのボランティアとは大きく違っていました。教師の立場で活動する中で、教職員が絶えず連携をとることの重要性和、長期宿泊の中で子どもたちが不安がらず安心して活動できるような教師としての態度をとることの大切さを日々感じていました。

大学に帰って感想を聞かれたとき、思わず「楽しかった」と叫んでしまいました。このような機会をつくっていただき、本当にありがたいと感じています。教師になろうとしている私にとっても、すばらしい体験になりました。



「花脊山の家」(左京区) 写真「花脊山の家HP」



教員受験直前講習「模擬授業」



各教育委員会の採用選考試験説明会

これからの予定

● 京都市教育委員会「プレ教師塾」

- 日時：2010年6月26日(土) 13:00~16:00
- 場所：京都市総合教育センター4階 永松記念ホール
- 対象学年：教職を目指す全学年
- ※ スーツ着用のこと。

● 2012年度中等科教育実習 予備登録説明会

- 日時：2010年7月8日(木) 18:00~19:30
- 場所：1209教室
- 対象学年：2009年度入学生で第4学年時に教育実習を希望する者
2008年度以前入学生で2012年度に教育実習を希望する者

● 2013年度中等科教育実習 希望者説明会

- 日時：2010年7月15日(木) 18:00~19:30
- 場所：1209教室
- 対象学年：2010年度入学生で第4学年時に教育実習を希望する者
2009年度以前入学生で2012年度に教育実習を希望する者

「採用の近道」積極的に受講出願！

教師を目指す学生のための講座（各教育委員会主催）

「教師塾」「教師力養成講座」「教志セミナー」など、様々な名称で、各教育委員会が大学生や大学院生などを対象に講座を開設し、受講生を募集しています。

これは、各府県や都市の教育施策や求める教師像の理解と、採用後、不調を起すことなく直ちに教師として独り立ちできることを願って実施されている事業です。選り抜きの講師陣を迎え、今日的な教育課題に対応した内容など、充実したプログラムが組まれています。教師としての実践的な指導力を身につけるという意味で、当然のことですが、採用選考試験受験に向けての着実な準備と大きな自信につながることは間違いありません。



「京都教師塾」の成果を語る
文学科 第4学年 小倉 明花

定員が決まっています。したがって、出願すれば自動的に受講できるわけではありません。受講料も必要です。受講資格に、その府県や都市の採用選考試験を受験するという条件がある場合がほとんどです。受講日は通常、土日ですので負担感もありますが、教師を目指す人は、ぜひ受講を目指してもらいたいです。

上記の説明会に出席したり、教職支援センターの資料を活用したり、各教育委員会のホームページで確認したりするなどして、情報収集に努め、積極的に受講しましょう。（細谷）

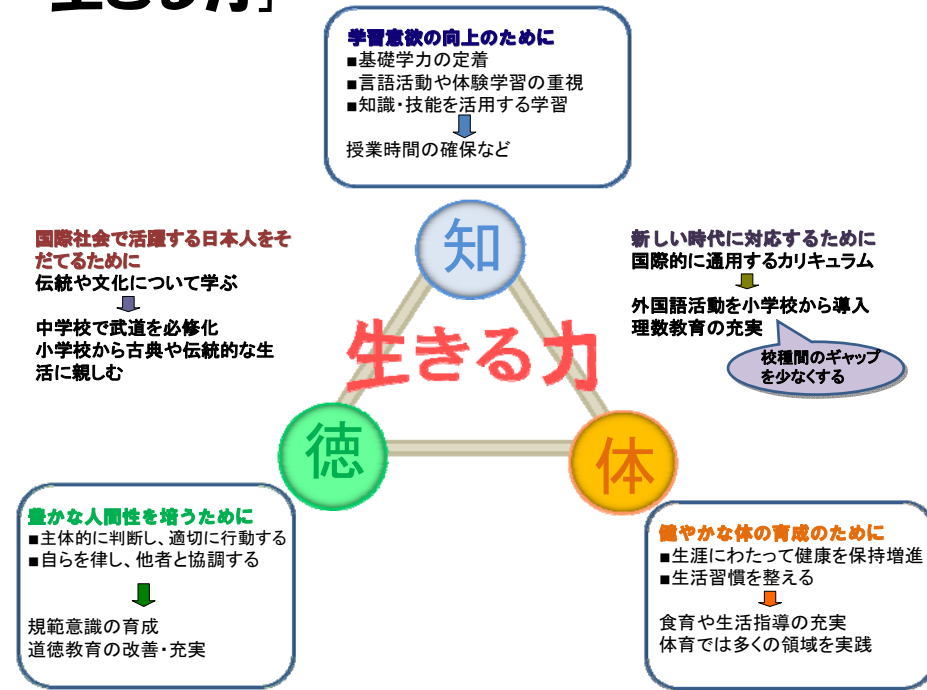
◆ 採用実績 ◆ 教員・講師 (2010年4月採用)

- ・京都府教育委員会
- ・京都市教育委員会
- ・宇治市教育委員会
- ・園部市教育委員会
- ・各務原市教育委員会
- ・彦根市教育委員会
- ・多賀町教育委員会
- ・湖南市教育委員会
- ・大阪市教育委員会
- ・東大阪市教育委員会
- ・堺市教育委員会
- ・新宮市教育委員会
- ・鳥取市教育委員会
- ・大谷中・高等学校

など

■ **知っておきたい教育用語** 文学科 第4学年 青井友理恵

「生きる力」



新しい学習指導要領が告示されました。「生きる力」をはぐくむという理念は受け継がれ、より具体化されています。

小学校では平成21年度から移行措置を経て、平成23年度から完全実施される予定です。中学校は24年完全実施です。

今改訂の「生きる力」について、解釈し分かりやすくするため「教員受験直前講習」で図式化に挑戦してもらいました。最優秀である青井さんの作品を紹介します。（細谷）

◆ **教育名言コーナー** ◆

The mediocre teacher tells.
The good teacher explains.
The superior teacher demonstrates.
The great teacher inspires.

平凡な教師は、ただ話す。
良い教師は、説明する。
優れた教師は、態度で示す。
そして、偉大な教師は
心に火をつける。



ウィリアム・アーサー・ワード
(米国・教育哲学者)

■ **読書案内** 文学科 第3学年 藤熊 梓

「自閉症児イアンのお話～脳と言葉と心の世界～」

ラッセル・マーティン（著）/吉田利子（訳）

—ぼくは じへいしょうだから—

これは生後19ヵ月で自閉症と診断された少年イアンが意思表示の手段としての言語を獲得するまでの成長を描いたノンフィクション作品です。

自閉症とは発達障害の一つと考えられています。「自閉」という言葉から、自分の殻に閉じこもり他者との関わりを持たないと誤解されがちです。本書のような著作によって少しでも、この障害についての理解が深まればと思います。



2001年 草思社

イアンは小学校入学を期に「言語」という彼にとって大きな生きる力となるものを手に入れます。その陰には家族や先生、周りの大人達の苦労と手助けがありました。イアンとその家族の苦闘、意思を伝えたいのに言葉として表現出来ないという葛藤、そして障害を支える家族や教師の大きな愛。イアンは現在もたくさんの愛に囲まれて日々成長しています。

本書を読み終えた時、心が温かなものに包まれる様な気持ちになり、とても深い充足感を得られる作品です。このような子供たちと関わっていく上で、私たちに出来ることは、はたして何なのでしょう。

将来、教師を目指す人たちには是非読んでもらいたい作品です。

■ **「大谷教師塾」原稿募集中！**

学んだ教育用語、好きな言葉（教育名言）、読んだ書籍の紹介、自作教員採用選考試験問題など、できる限り学生による紙面づくりを目指したいと考えています。